

### 3、「気温 0℃付近＝冬＝植物が枯れる」か

～覆された常識～

冬期に東京以北の在住経験がない私にとって、ロシアの冬は発見の連続です。ここでは、寒さに常識を覆された事について、私の日記を引用してご紹介致します。

#### 「気温 0℃付近＝冬＝植物が枯れる」か

(10月19日日記より)

ロシア語でзолотая осень (黄金の秋)といわれる様に、ここの紅葉は非常に綺麗だ。子供達が落ち葉狩りをしている微笑ましい光景もこの季節に非常にマッチする。

最近の外の気温は、日中上がっても7～8℃だろうか。最低気温は0℃付近。日本でいえば冬だ。ロシア人は「まだ涼しい段階よ」と言っていたが、あまり真に受けておらず、ここももう完全に冬だと思っていた。

冬であれば、木は葉を落とし、裸になる(ロシア人もこの認識の様だ)。でも…

今日実感したが、木はまだ「紅葉」の段階なのだ。確かに葉が散ってきつつはあるものの、未だに青々としている木もあるし、芝生だって青い。

ということは、まだ今は晩秋又は初冬。

そう考えた時、二つの事にびっくりした。

まず、もっと寒くなるという事にびっくりした。またしてもこの国の寒さの程度には驚いた。頭では氷点下10数℃に下がる事はわかっている、これ以上どう寒くなりうるのか、イメージが湧かない。

次に、思いこんでいた常識が違っていた事に気づいてびっくりした。今まで頭の中では、「①気温が0℃付近＝②冬＝③植物は枯れる」という図式が当たり前のように成り立っていた。でも、②＝③であるかもしれないが、事実①≠②だし、①≠③なのだ。

東京より北に住んだ経験が無い為、こういう事に関しては東京の当たり前を常識だと思い込んで疑う事は無かった。

でも、違う。一つ面白い事を知った。この年にして、小学校の理科を勉強しているみたいだ。

#### 服部 祐也 (はっとり ゆうや)

ロシア連邦・サンクトペテルブルク国立大学留学中

2003年4月早稲田大学政治経済学部入学。2005年9月～2006年6月アメリカ合衆国 California Polytechnic State University San Luis Obispo 留学。2007年9月早稲田大学政治経済学部卒業。2008年4月より総合商社勤務。現在、ロシア語研修生としてサンクトペテルブルク国立大学に留学中。



ロシアで最も有名な劇場の一つ、マリインスキー劇場。  
寒い季節、ロシア人は劇場や美術館に足を運び

### 4、おわりに

この冬は過去と比べても特に寒いらしく、ここサンクトペテルブルクは130年ぶりの積雪量を記録したとのこと。この記事を投稿する2月上旬現在での私の最寒記録は最低気温氷点下26℃ですが、当地は湿度が多い為、当地の氷点下20℃の方がシベリアの氷点下40℃よりも寒く感じるとの話もあります。いずれにしても、ロシア人が口を揃えて「今年は寒い」というロシアの冬を体験できることは、留学生として非常に幸運なことです。

上述の通り、ロシアの街(特に大都市部)は、私の渡航前の漠然とした印象をよそに、確実に「西欧」化されてきています。昨今の金融危機のダメージが未だ残る中ではありますが、この変化の中で、5年前の授業で松本先生が仰っていた「常にアンテナを張ってものごとを観察すること」を心掛け、自分がこの国の発展及び日本の国益に如何に貢献し得るか、引き続き模索していきます。

(尚、本記事の見解は筆者が勤務する企業の見解とは一切関係無く、私個人の考えを述べたものである事を念の為に申し添えておきます。服部)

服部君の前のエッセイは、下のサイトでお読みなれます。  
[www.infoe.com/IMZ/WASEDA/WSD-List-1.htm](http://www.infoe.com/IMZ/WASEDA/WSD-List-1.htm)



極寒の地からの服部君の第2信です。

(ごめんなさい。私はロシア人です。10℃で、「少し寒い」)

「アンテナを張って」ロシアの社会・経済を観察し、さらには小学校の理科の勉強(?)もしている様子。服部君らしくて良いですね。

また、「この国の発展及び日本の国益に如何に貢献し得るか」という若者らしい前向きな姿勢で、ロシアを見、日本を振り返ることは、服部君と両国(?)に取って大きな意義があります。

服部君、寒いでしょうが、体に気をつけてがんばってください!